

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 (2021年9月30日)	前連結会計年度 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	11,272,223	10,106,187
固定資産	5,849,552	6,112,915
有形固定資産	5,124,318	5,518,422
無形固定資産	73,687	75,937
投資その他の資産	651,545	518,554
資産合計	17,121,775	16,219,102
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,408,187	6,241,501
固定負債	2,183,715	3,272,761
負債合計	9,591,902	9,514,262
<b>純資産の部</b>		
株主資本	7,399,594	6,622,523
資本金	464,817	464,817
資本剰余金	554,974	576,648
利益剰余金	6,523,565	5,724,794
自己株式	△143,762	△143,736
その他の包括利益累計額	114,720	76,529
その他有価証券評価差額金	98,338	58,038
為替換算調整勘定	16,382	18,491
非支配株主持分	15,556	5,786
純資産合計	7,529,872	6,704,840
負債純資産合計	17,121,775	16,219,102

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 2020年10月1日から 2021年9月30日まで	前連結会計年度 2019年10月1日から 2020年9月30日まで
<b>売上高</b>	<b>11,576,008</b>	<b>11,338,176</b>
売上原価	7,959,266	8,405,930
<b>売上総利益</b>	<b>3,616,742</b>	<b>2,932,246</b>
販売費及び一般管理費	2,549,552	2,594,375
<b>営業利益</b>	<b>1,067,190</b>	<b>337,870</b>
営業外収益	280,733	158,407
営業外費用	37,683	33,685
<b>経常利益</b>	<b>1,310,239</b>	<b>462,592</b>
特別利益	46,653	—
特別損失	860	123
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,356,033</b>	<b>462,468</b>
法人税、住民税及び事業税	463,668	122,256
法人税等調整額	△72,705	23,201
<b>当期純利益</b>	<b>965,070</b>	<b>317,011</b>
非支配株主に帰属する当期純利益	27,804	180
親会社株主に帰属する当期純利益	937,265	316,830

## 連結キャッシュ・フロー計算書

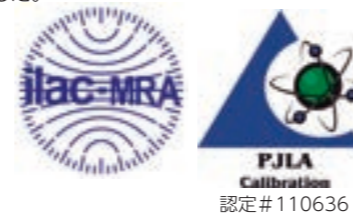
(単位：千円)

科目	当連結会計年度 2020年10月1日から 2021年9月30日まで	前連結会計年度 2019年10月1日から 2020年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,098,378	500,378
投資活動によるキャッシュ・フロー	△162,833	△545,479
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,158,002	1,899,165
現金及び現金同等物に係る換算差額	35,375	14,740
現金及び現金同等物の増減額	812,917	1,868,805
現金及び現金同等物の期首残高	2,839,536	970,730
現金及び現金同等物の期末残高	3,652,453	2,839,536

## ISO/IEC 17025:2017 校正サービス

ISO/IEC 17025は、国際標準化機構によって策定された、試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項の国際標準規格で、試験所・校正機関の能力を、認定する際の基準として利用されています。自動車産業の品質マネジメントシステムであるIATF16949ではISO/IEC 17025認定取得機関での試験機の校正が必要との解釈を発表しており、今後校正サービスの需要が高まると考えています。IMVは2021年5月10日付けで、ISO/IEC 17025:2017の校正機関としてPJLA (Perry Johnson Laboratory Accreditation, Inc.) より認定を受けました(認定番号110636)。

これにより「ループ校正」という加速度センサー/振動制御器/振動発生機/電力増幅器も含めたシステム全体での校正が可能となりました。



## マツダ株式会社様よりMES67602Dに対応した試験所として認定されました

IMV株式会社 日本高度信頼性評価試験センターは、2021年3月15日付けでMES67602Dに対応した試験所としてマツダ株式会社様に認定されました。高い水準での品質基準をクリアした当社のEMC試験を、是非、当社テストラボにてご体験ください。



## 株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	12月中
定時株主総会の基準日	9月30日
配当金受領株主確定日	期末配当金 9月30日 中間配当を行う場合は 3月31日
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031 (フリーダイヤル) 取扱事務は三井住友信託銀行株式会社の 全国各支店で行っております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ市場 (証券コード：7760)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL <a href="http://www.imv.co.jp/">http://www.imv.co.jp/</a>

■住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金のお支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## IMV CORPORATION



この報告書は、環境に配慮し、  
植物油インキを使用しております。

# 第75期報告書 IMV通信

2020年10月1日 ▶ 2021年9月30日

[SECURE THE FUTURE]



**IMV株式会社**  
(証券コード：7760)



株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第75期（2020年10月1日から2021年9月30日まで）IMV通信をお届けいたします。

2021年12月

代表取締役社長 小嶋淳平

当連結会計年度の概要

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大局面での経済活動の制限と、収束局面での経済活動再開の動きが繰り返され、不透明な状況が続きました。一方、国内経済はCOVID-19による度重なる緊急事態宣言の発出に見舞われ、厳しい状況にある中、設備投資など一部に持ち直しの動きもみられました。

このような環境の中、当社グループの売上高は振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの伸長により、前年同期を237百万円上回る11,576百万円となりました。利益面では、製品原価率の改善や経費の削減などグループ全体における費用圧縮効果により、営業利益が1,067百万円（対前年同期比729百万円増）、経常利益が1,310百万円（対前年同期比847百万円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は937百万円（対前年同期比620百万円増）となりました。

今後の見通しにつきましては、引き続きCOVID-19の流行による世界経済への予測困難なリスクが存在することに加え、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動等から世界経済が下振れするリスクがあります。しかしながら、外部環境の変化へ適切に対応しつつ、次期は必要な設備投資及び研究開発を行うことで更なる競争力の向上を目指します。

以上により、次期の売上高につきましては12,500百万円（当期比8.0%増）、営業利益1,150百万円（当期比7.8%増）を見込んでおりますが、当連結会計年度において計上され

た為替差益や助成金収入を想定していないことから、経常利益は1,250百万円（当期比4.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は900百万円（当期比3.9%減）を見込んでおります。なお、業績見通しの前提となる為替レートにつきましては、1ユーロ=125円、1バーツ=3.35円、1US\$=105円を想定しております。

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

振動を計測するメジャリングシステム  
連結売上高 11億8,400万円

（前年同期比13.4%増、売上構成比10.2%）

国内市場におきましては、振動計測装置や構造ヘルスマニタリングの製品販売が伸びたものの、地震監視装置等が伸び悩み前年同期を下回りました。一方、海外市場におきましては、中国、台湾を中心に振動計測装置、地震監視装置の販売が好調に推移しました。また、サービス部門もメンテナンス部材等の売上が好調に推移し前年同期を上回りました。

以上の結果、この品目の売上高は1,184百万円（対前年同期比140百万円増）となりました。

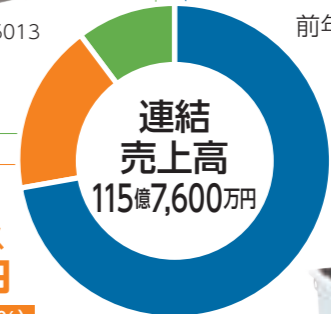


振動を再現する振動シミュレーションシステム  
連結売上高 83億6,400万円

（前年同期比4.8%増、売上構成比72.3%）

国内市場におきましては、大型機の売上が好調に推移したことや自動車関連向けの売上が堅調に推移しました。一方、海外市場におきましては、自動車関連向けや試験施設向けを中心に欧州は好調でしたが、米国やASEAN地域の売上低迷が響き前年同期を下回る結果となりました。また、サービス部門におきましては、試験所及び校正機関品質マネジメントシステム規格（ISO 17025）の校正サービスを開始したほか、海外でのメンテナンスサービスが好調に推移し前年同期を上回りました。

以上の結果、この品目の売上高は8,364百万円（対前年同期比380百万円増）となりました。



振動問題を解決する  
テスト&ソリューションサービス  
連結売上高 20億2,600万円

（前年同期比12.2%減、売上構成比17.5%）

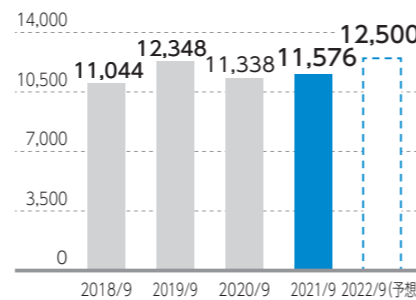
国内市場におきましては、第2四半期連結累計期間まではCOVID-19の感染拡大に伴う経済活動の制限による受託試験の延期などにより低迷しましたが、第3四半期連結会計期間以降は振動試験を中心に復調しました。一方、海外市場におきましては、ASEAN地域における自動車向けの試験が順調に推移いたしました。しかしながら、第2四半期連結累計期間までの国内市場の不調が影響し、この品目の売上高は前年同期を下回る2,026百万円（対前年同期比282百万円減）となりました。



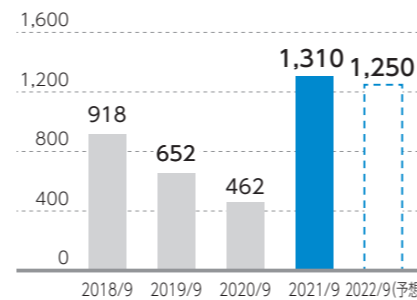
Highlights

ハイライト

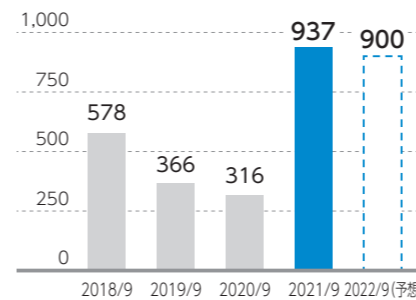
連結売上高 (単位：百万円)



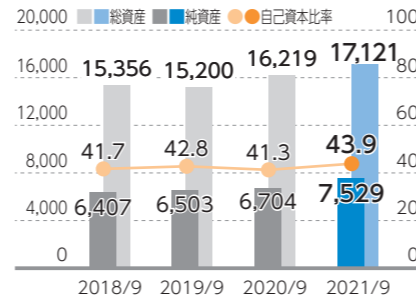
連結経常利益 (単位：百万円)



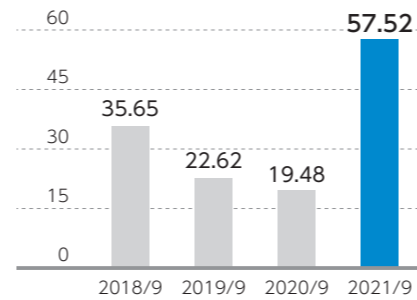
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



総資産／純資産／自己資本比率(連結) (単位：百万円) (単位：%)



1株当たり当期純利益(連結) (単位：円)



受注高及び受注残高(連結) (単位：百万円)

